

<家庭数>
保護者の皆様

令和2年12月17日
世田谷区立山野小学校
PTA会長 佐谷 恭
家庭教育学級サポーター

第1回家庭教育学級開催のご報告及び録画視聴のご案内

寒風の吹く日が増え、今年もいよいよ残りあとわずかとなってまいりましたが、皆様ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。去る12月2日(水)、元高校教諭 オランダ在住の三島菜央先生を講師にお招きし、第1回家庭教育学級の講演会を開催いたしました。

コロナ禍、かつ、海外からの講演ということで対面ではなくzoomを利用し、約70名の保護者にご参加いただきました。一方、時差を鑑み平日の15時から16時半という時間帯の開催となったため、当日参加できなかった方も多くいらっしゃると思います。

そこで、zoomでの講演会を録画し、より多くの方に視聴していただける機会を設けることにいたしました。年の瀬のお忙しい時期ではありますが、以下に講演会の内容を簡単にまとめましたので、少しでも関心を持っていただけた方は是非一度ご視聴下さい。また、講演会のご感想等も承っておりますので、気軽にアンケートにお答えいただけると幸いです。

第1回家庭教育学級

子どもの幸福度 No.1 の国で見た「社会」と「教育」

高校2年の夏、様々な重圧から不登校になり、「遠回りした人しか見られない景色を見に行けば良い」というある教師の一言で自主退学をすることに。

三島先生のそんな学生時代のお話から講演は始まりました。

オランダの制度と教育

オランダの学校は、シチズンシップ教育(市民教育)に重点を置き、自分は社会の一員だという意識や市民として生きていく上で必要な素養を身につけるための場だと考えられている。人々の自己実現を支える制度【法律】→幸せになるために必要なものを学ぶ学校【教育】→教育を通じて学んだことを実践する場【労働】→自分らしさや幸福【家庭】と、社会全体が個々の幸福につながる役目を担っているのがわかる。社会は様々な仕事に従事する人々のおかげで成り立っているという考えのため、学力、学歴、職業等に差別意識はない。

オランダの初等教育

- 学 校 : 学区がなく、自由に選択することができ、比較的簡単に転校が可能。
校長が経営者となり、研修制度を最大限に利用し教員の質を維持するとともに、子どもにとって良いと思われるカリキュラムを自由に組み入れて学校を運営している。
- 教 員 : 複数担任制で曜日毎に担任を持ったり、昼休みは外部委託を利用し休憩時間を取ったり等、教員の労働者としての権利が守られている。
- 子 ども : 宿題なし、部活なし、塾なし。“子どもでいられる時間は短いので、子どものうちは子どもらしく過ごさせてあげよう”と社会全体が認識している。大学進学率は25%。
- 親 : 夫婦で協力して子どもの送迎を行う。子育ての期間は限られているので、その間は仕事をセーブし、子育てにコミットする。

オランダから見た日本の教育・子育てのヒント

日本の学校では将来社会に出るための教育を子どもたちに行っているが、その指導を行っている教員自身が社会に出る機会が少ないように見える。日本は子どもたちの身体的幸福度は1位だが、精神的幸福度は38か国中37位であるという現実注目し、大人たちができることから行動することが必要だと考える。

オランダは家族との時間を大切にし、それが個々の幸福に繋がっている。日本における様々な事情によりすぐに何かを変えることは難しいかもしれないが、どうか家族で過ごす時間を、そして家族での対話を増やし、安定した親子関係を目指してほしい。そして、どうか子どもの「暇な時間」を大切にし、創造性を広げてあげてほしい。変化をもたらすのはいつも私たち「人」だから。

講演会を終えて

PTA本部 家庭教育委員会&サポーターより

今回初めての試みとして zoom での開催となりましたが、国内外問わず講演が行えること、後日録画視聴が可能なことという利点を生かすことができ、今後の講演内容を考えるにあたりより広い分野でより多くの方の参加を期待できる可能性を見出すことができました。その第1回目として、オランダの教育事情を通して日本の教育、学校、家庭を見つめ直す時間をご提供させていただきました。

一保護者として特に印象に残っているのは、体育は好きなスポーツを見つける機会、音楽は本物に触れ人生を豊かにしてくれるもの、というように、学校での授業はあくまでも子どもが送っていく人生により良く作用するような時間であるというお話です。学校でも家庭でも「対話」を大事にし、子どもの意思も尊重することにより、それが自己肯定感に繋がり、それぞれの幸せになっていく。本当に素晴らしい考え方だと思いました。我が家も今日から子どもの話をたくさん聞こう！